

令和5年度食品ロス発生量の実績について

1 秋田市食品ロス削減推進計画

食品ロスの削減の推進に関する法律（令和元年法律第19号）第13条の規定に基づき、令和5年3月に、本計画を策定している。

本計画では、「一人1日当たり家庭系食品ロス発生量」や「事業系食品ロス発生量」について目標を掲げるとともに、期待される役割と現状のギャップを縮めるため推進施策を実施し、目標の達成を目指している。こうした目標と推進施策については、実績の現状分析と評価を行いながら、進捗状況を点検することとしている。

2 本計画で掲げる各種目標に対する実績と評価

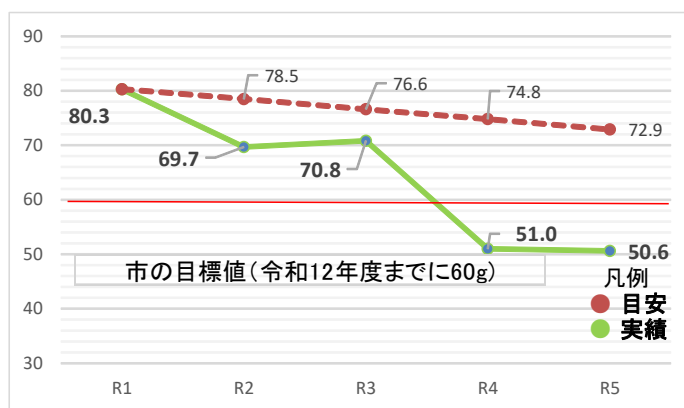
(1) 一人1日当たり家庭系食品ロス発生量

【目標】

一人1日当たり家庭系食品ロス発生量
令和12年度までに、令和元年度比で25.3%削減する。
(80.3グラム ⇒ 60グラム)

【実績】

	一人1日当たり 家庭系食品ロス (g)	食品ロス 発生量 (t)	直接廃棄 (t)	食べ残し (t)	家庭ごみに含まれる 食品ロスの割合 (%)
R元	80.3	8,971	4,169	4,802	15.8
R2	69.7	7,739	4,143	3,596	13.5
R3	70.8	7,796	4,544	3,252	13.8
R4	51.0	5,553	2,888	2,665	10.1
R5	50.6	5,461	3,610	1,851	10.4



【評価】

令和5年度の一人1日当たりの家庭系食品ロス発生量は、前年度比0.4グラム減の50.6グラムとなっている。令和12年度までに達成すべき食品ロス発生量の目標値を下回っている^{*1}が、目標達成については、3年程度動向を見極めながら、継続的に目標値を下回り、ライフスタイルとして定着したかどうかで判断する。

*1 生ごみの割合が比較的多い8月に実施する夏季の組成調査が、令和5年7月豪雨での災害廃棄物処理を優先し中止とした影響も考えられる。

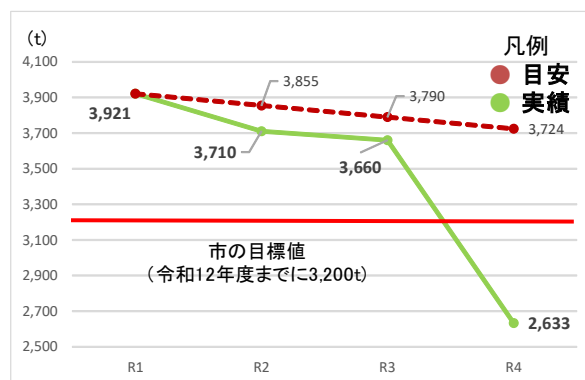
(2) 事業系食品ロス発生量

【目標】

事業系食品ロス発生量 令和12年度までに、令和元年度比で18.4%削減する。 (3,921t ⇒ 3,200t)
--

【実績】

	事業系 食品ロス	食品製造業	食品卸売業	食品小売業	外食産業
R元	3,921	245	571	1,648	1,457
R2	3,710	282	536	1,529	1,363
R3	3,660	296	590	1,421	1,353
R4	2,633	273	460	1,111	789



【評価】

令和4年度*1の事業系食品ロス発生量は、2,633tとなっている。前年度から1,027t減と大幅に減となり、目標値を下回っている。

本市の事業系食品ロスは、食品小売業や外食産業からの発生が多数を占めることから、こうした事業者へ引き続き食品ロス削減の啓発を進めていく。

3 管理指標 (秋田市の食品ロス発生量)

秋田市の食品ロス発生量 令和12年度に、9,297tとする。 (12,892t【令和元年度】 ⇒ 9,297t【令和12年度】)
--

【実績】

(単位：t)

	食品ロス発生量	家庭系	事業系
R元	12,892	8,971	3,921
R2	11,449	7,739	3,710
R3	11,456	7,796	3,660
R4	8,186	5,553	2,633

【評価】

本市における食品ロス発生量目標、管理指標とも目標値を下回っている。

事業実施の効果が、着実に実績に現れてきていると評価できる。

市民や国民運動の高まりが認められ、国においても前倒しで食品ロス削減目標を達成し、令和6年度中に新たな目標の策定について検討していることから、引き続き状況を注視していく。

*1 試算根拠としている国公表データが令和4年度実績までであり、最新が令和4年度となる。